

カントの理論哲学について

東京都立多摩高等学校 本間 恒男

『純粋理性批判』の要約ともいえる、プロレゴメナをテキストにして、カントの理論哲学、形而上学について、確認していきたいと思います。10年前にも分科会で報告をしたことがあるのですが、その時から（自分は）進歩はしていないと思います。しかし、時代が大きく変わっていることによって、カントの哲学も新たな意義づけができるのではないのでしょうか。

さて、すべての教員がキャリア教育をやらなければならないのですが、その過程で、AIの進展の問題は避けて通れないと思います。当然、「人間としての在り方生き方」を考える上でも重要なファクターだと思います。カントの哲学から気づくべきこともあるのではないかと考えているのですが、その辺りを皆さんとお話しできればと思っております。

キーワード

- **いかにしてアприオリな総合判断は可能であるか。**
- **すべての認識は経験と共に始まるが、すべての認識が経験に基づくわけではない。**
- **認識は対象に基づくのではなく、対象が認識に基づくのである。**
- **「統覚」**
- **「構想力」**

参考

本書の題名「およそ学として現われ得る限りの将来の形而上学の為のプロレゴメナ（序論）」に示されるように、前著『純粋理性批判』における「形而上学の批判」のカントの真意の曲解に対する反駁として書かれ、『批判』の要旨を簡潔平明に論述しながら、真に学的な形而上学の成立の諸前提を設定しようとしたものである。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b246746.html> より

内容 本書の正確な表題「およそ学として現われ得る限りの将来の形而上学のためのプロレゴメナ(序論)」に示されるように、前著『純粋理性批判』における「形而上学の批判」にこめられたカントの真意への曲解に対する反駁として書かれ、『批判』の要旨を簡潔平明に論述しながら、真に学的な形而上学の成立の諸前提を設定しようとしたものである。

(amazon 「BOOK」データベースより ￥ 972)

